伏見小だより

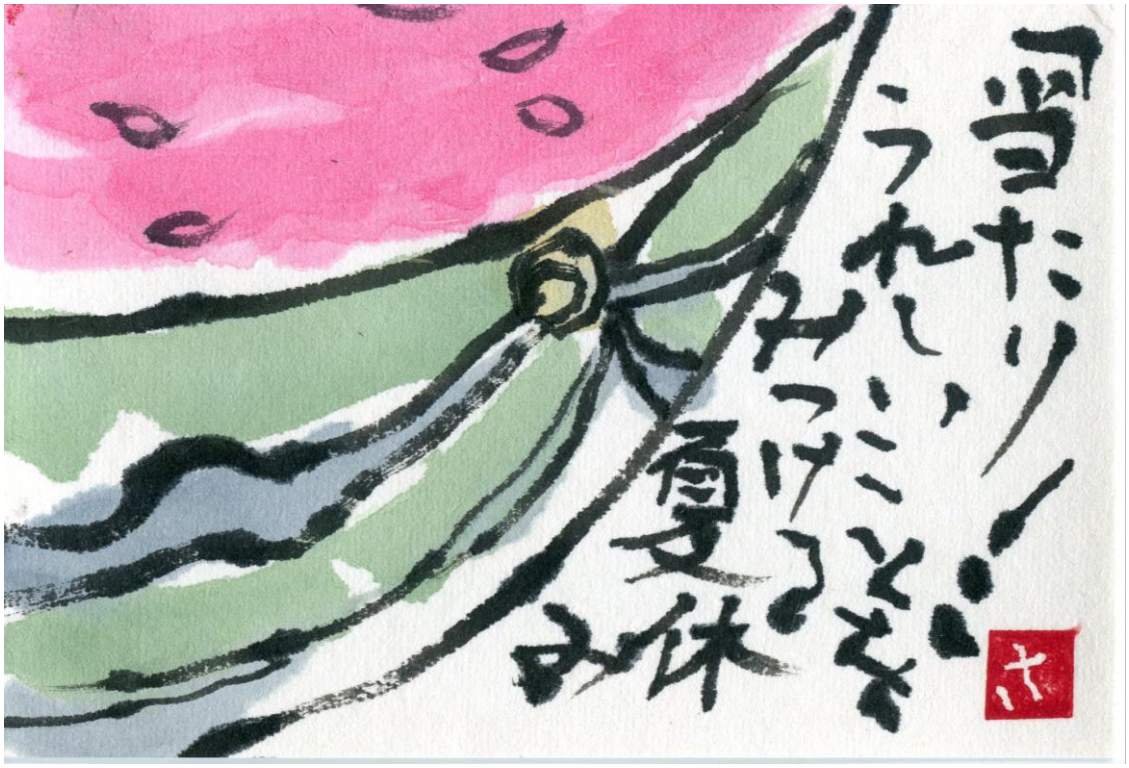
伏見っ子

平成３０年度夏休み号
H30.7.20 発行

学校の教育目標
よく考え仲間とかかわって行動できる子

かけがえのない宝物づくり

校長　佐野　政紀



６８日間の１学期が終わりました。しばらく学校生活ともお別れになります。夏休みは一日の生活のリズムが大きく変わります。自分で生活のリズムをつくらなければなりません。家にこもっていると人との関わりも少なくなり、コミュニケーション力も低下してしまいます。夏休みには、「規則正しい生活」と「人・もの・こと」のふれあいを積極的につくっていくことが大切です。

イソップ物語に「農夫とその子どもたち」というお話があります。ある農家に怠け者の３人の子どもがいたそうです。働き者の農夫は年老いて亡くなる直前に３人の子どもたちを呼び、「わが家の畑に宝物を隠しておいたから、今年の収穫が終わったら深く掘り起こしてみろ」と言い残して亡くなりました。子どもたちは、親の遺言通り畑を深く掘り起こすことになりました。それでも宝物が見つからなかったので、結局畑中を深く掘り起こすことになりました。それでも宝物は発見できなかったのですが、翌年の収穫はこれまでにない大豊作に恵まれたそうです。そして、その収穫物でたくさんの収入を得たそうです。子どもたちは、働き者の農夫（父親）からかけがえのない宝物を手にしたことを大変喜んだそうです。その宝物とは・・・。保護者の皆様の活躍のときです。夏休みはかけがえのない宝物を授けて頂ける機会でもあると思っています。

９月には一段と成長したお子様の元気な姿、そして夏休みの思い出話や自由研究などを、教職員一同首を長くして待っております。

伏見小　検索